

【2022年度 中間レポート奨学生の声】

奨学生 A さん

・私は、一般的な大学よりも学費の高い音楽大学で学んでいる為、資金確保のためにアルバイトを2店掛け持ちしている。その為、他の同じ音大生よりも練習時間の確保が難しいと感じている。しかし貴財団の奨学金に採用して頂いたことで、心に余裕が生まれ、これまで以上に練習に没頭できたと感じた。これからも、貴財団の奨学金に頼らせていただき、将来プロの音楽家になるために、日々練習に励み結果を残していきたいと考えている。これからもご支援の程、よろしく願いいたします。

奨学生 B さん

・この度は奨学生に採用していただき、ありがとうございます。奨学金のおかげで、学業に専念することができ、また大きなコンクールにも挑戦することができました。楽器の修理や備品の購入ができたことで、練習の効率も上がり、演奏に大きく影響しました。学生の間にもっと勉学に励み、沢山の人の人となりが、多くの経験を積んでいきたいです。そして社会人になったときには、音楽の魅力をより多くの人に伝え、クラシック（歴史）を未来へ繋いでいく人間になりたいと思います。

奨学生 C さん

・去年、私が努力してきたこと、頑張ってきたことを認めていただけて、今回大学の方から藤澤記念財団様を紹介していただき、奨学生として採用していただきました。このレポートを書いている間、前期にあったこと、後期・来年度頑張りたいことを整理することができました。私のやりたいことがまた一段とはっきり見えたような気がしています。また、私の立場は当たり前ではないことも気が付くことができました。改めて、奨学生としての自覚をもち、責任のある行動をしていきたいと思います。

奨学生 D さん

・私は将来的に、音楽をはじめとした芸術文化に貢献できる仕事をしたいと考えております。それに向けた大学卒業後の進路としては、大学院進学・留学を目指していきたいです。今後 100 年の芸術文化を模索していくためには音楽だけでなく社会や歴史・外国文化について知見を広げることが必須であり、現在の社会状況を見てもその必要性はより高まっています。奨学金の給付により学びを継続できることに感謝申し上げますとともに、今年度後期も精一杯精進していきたいと考えます。

奨学生 E さん

・昨今の円安やロシアによるウクライナ侵攻の影響もあって、楽譜や弦の価格が高騰しています。特に弦は、これまでの倍の価格になったものもありました。しかし、演奏の要になるものなので、質を落とすことはできず、定期的に替えていても練習を重ねていると突然切れてしまうことがあります。経済的に不安な中、貴財団の奨学金には精神的にも助けられており、感謝の気持ちをお伝えしたいと思っておりました。奨学生の名に恥じぬよう、これからも精進してまいります。